

# 八千代市イメージキャラクター「やっち」

## 着ぐるみ使用マニュアル

(平成26年6月改訂版)

### 1. 事前の確認事項

着用者および介添者は、必ずこのマニュアルを熟知しておくこと。

#### (1) 人員体制

- 装着・装演をするときは、必ず2人以上で交替して行うこと。
- 1回の装着・装演は30分程度を上限とし、必ず休憩をとること。
- 介添者は、必ず1人以上つけ、移動時などの補助を行うこと。
- イベントの演出などについては、事前に主催者や司会者と十分に打ち合わせを行うこと。

#### (2) 控え室の確保

- 控え室は、着ぐるみを広げ、着替えることのできる十分なスペースを用意すること。
- 控え室の床には、ビニールシートを敷き、汚れた床や地面に着ぐるみを直接置かないこと。
- 控え室は、なるべくステージ、登場ポイントに近い場所に用意すること。

#### (3) 搬入・搬出

- 着ぐるみを積載できる車両および2人以上の運搬人員を確保すること。
- 着ぐるみを搬入・搬出する際には、扉や壁に当てないように気をつけること。

#### (4) 環境等

- 雨天・降雪時等は屋外で使用しないこと。また、天候が変わった場合は、速やかに撤収すること。
- 火気、水気には絶対に近づけないこと。
- 着ぐるみの側でたばこを吸わないこと。
- 飲酒・酒気帯びでの着用は絶対に行わないこと。
- 着ぐるみの内部は風通しが悪く、高温になるため、熱中症・脱水症状に十分注意し、水分補給はしっかり行うこと。特に夏場は、1回の装着・装演時間を短くするなど、無理のない使用をすること。

### 2. 貸し出し内容

(1) 保管袋1 (マチあり) サイズ: 横90cm×縦85cm×高さ90cm

収納物: ①頭部 (くちばしには保護カバー)

(2) 保管袋2 (マチなし) サイズ: 横90cm×縦120cm×高さ90cm

収納物: ①胴体 (しっぽには保護カバー) ②足 ③足の中敷き (4枚)

※足は図のように新聞紙を丸めていれてあります。



### 3. 着用について

#### (1) 着用者の年齢・身長

着ぐるみは、原則20歳以上かつ身長150cm～165cm程度の方が着用してください。  
170cm以上の方の着用は禁止です。

(20歳未満が着用する場合は、20歳以上の介添者が必ず付き添うこと)



また、着ぐるみは視界がよくない上、構造や素材の関係で動きが制限されるため、着用者は周囲の状況に十分注意してください。

#### (2) 着用者の服装について

体	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長袖シャツ(素肌が直接着ぐるみに触れないよう、季節に関わらず着用する。)</li> <li>●長ズボン(ジャージ、スパッツ等)</li> </ul>
足	●靴下(新品もしくは洗濯をしたもの)着ぐるみ着用時に履き替える。
手	●手袋・軍手等
頭	●バンダナ・タオル等(頭にかぶる。)
顔	<ul style="list-style-type: none"> <li>●化粧を取ってから装着すること。(化粧の付着を避けるため)</li> <li>●眼鏡を使用しない。(やむをえず使用する際は、曇り止め、眼鏡バンドをする)</li> </ul>

### 4. 着脱方法

着脱の際は、着ぐるみを素手で触らないよう手袋を着用し、必ず介添者が補助して行うこと。着脱は人目につかない所で行ってください。

#### (1) 着るとき

<p>① 準備</p> <p>○着用者は、長袖シャツ、長ズボンになり、手袋、バンダナ・靴下を着用する。</p>		<p>② 足</p> <p>○足(ズボン)を履き、ベルト(マジックテープ)で留める。</p>	
---	--	--	--

③  
胴体1

○介添者は、胴体を頭の上から着用者にかぶせる。  
この時、着用者は両手をあげて(バンザイをして)かぶる。

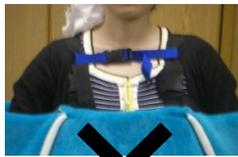


④-1  
胴体2

○身長にあわせ肩ベルトで調節する。



○肩のずれを抑えるため、背中へのベルトを留めてください。



このベルトは必ず背中で留めてください。前で留めると危険です。

④-2  
胴体2



○調節した際に余ったひもは外に見えないように注意してください。



○肩ベルトの調整は長くしすぎると外から中が見えてしまうので、必ず着用後に動いても中が見えないか確認を行ってください。

⑤  
頭部

○介添者は、頭部をかぶせる。  
○着用者は、中のヘルメットに頭を固定し、あごひも(マジックテープ)で固定する。



⑥  
羽

○介添者は、手を入れる位置を指示する。  
○着用者は、羽に手を入れる。



## (2) 脱ぐとき

①羽	●着用者は、羽から手を出し、頭部の中に手を入れる。
②頭部	●着用者は、ヘルメットのあごひも(マジックテープ)を外す。 ●介添者は、あごひもを外したことを確認し、頭部を外す。
③胴体	●着用者は、肩ベルトを外し、胴体を脱ぐ。 ●介添者は胴体を持ちあげる手伝いをする。
④足	●ベルト(マジックテープ)を外し、(ズボン)を脱ぐ。

## 5. 演技の際の留意事項（着用者向け）

着ぐるみ着用者は、次の事項に留意し演技してください。

### (1) 動きについて

- 動きは出来る限りオーバーアクション気味に動くこと。  
⇒着ぐるみは手足が短いので、意識的に大きく動かないと動きが小さく見える。
- 小さな子どもとの握手は、できるだけ低い体勢で行うこと。  
⇒子どもは大きな着ぐるみに見下ろされる感覚になり、恐怖心を抱くことがある。

### (2) 発声について

- 着用中は声を出さないこと。（特に介添者との雑談は厳禁）
- 介添者との間に「緊急事態」「トイレ」などを知らせるサインを決めておくこと。  
⇒周囲の人から殴る蹴るなどの行為を受けた際も、介添者へのサインで対処する。

### (3) 移動について

- 着ぐるみは、視界が狭いため、進行スピードや方向は、介添者の指示に必ず従うこと。
- 走る行為は厳禁。
- 着ぐるみは、構造と素材の関係から小さな歩幅でしか歩くことができないため、長い距離を歩く、階段の昇り降り、段差を越えることは難しいので注意すること。

## 6. 演技の際の留意事項（介添者向け）

### (1) 介添者の位置について

- 着ぐるみとは「付かず離れず」を心がけ、緊急時の際にはすぐ対応できる距離にいること。
- 介添者が1人の場合は、着ぐるみの斜め前から先導し、必要なときは手を引いて着ぐるみの歩行を補助すること。
- 介添者が2人以上付く場合は、前後に分かれること。

### (2) 声かけについて

- 着用者は周囲がほとんど見えないので、声かけにより周囲の状況を知らせること。  
特に、出入り口などの扉を通る時には、破損の恐れがあることから、周囲に当たらないよう誘導をすること。
- 控室の外で、着用者と雑談をしない。着ぐるみ着用者を呼ぶ時は「やっち」と言うこと。
- 握手・写真撮影は、必ず正面からやっちに話しかけるように伝えること。  
⇒声かけは、親しげに着用者ではなく、やっちへ声をかける。  
例：「やっち、お友達が握手したいそうよ！」「やっち、前に階段があるから気をつけてね！」

### (3) 対応について

- 周囲の状況に絶えず気を配る。握手や写真撮影の際は、人の整理を行うこと。
- 着用者の様子に気を配り、無理をさせないようにすること。
- 着ぐるみに危害を加える人には、毅然とした態度で注意すること。
- 「中には誰が入っているの？」などの質問は、「やっちはやっちです！」とにこやかに答えること。

## 7. 使用後のお手入れ

- 内側は、固く絞ったタオルで水拭き後、から拭きをして水気をとること。
- 汗をかいているので、内側に風が入るように陰干しをして、十分に乾燥させること。  
足には新聞紙を丸めて入れること。
- 消臭・殺菌スプレーをすること。
- 足の裏の汚れをふき取ること。
- 搬出搬入時は、収納袋に入れること。
- 返却時は、汚損等があれば申告すること（勝手に補修しないこと。）

**汚したり、破損した場合は、クリーニング代や修繕費を負担していただきます。  
装演や取り扱いには細心の注意をお願いします。**